

第12回 茨城フットケ抄録 (2015_0312)

「当院における末梢動脈疾患(PAD)検査の実際；筑波メディカルセンター病院との連携症例報告」 川井クリニック 臨床検査技師 本橋しのぶ

当院では、2014年8月より i-PAD ネットワークに参加、筑波メディカルセンター病院・循環器内科との積極的な検査連携を開始した。院内で行われているスクリーニング検査(足背動脈触知(年1回)・ABI検査)にてPADが疑われる患者へは、下肢MRA検査を施行、末梢血管外来での結果説明までを一連の流れとしてPAD患者への早期介入を目指している。

今回はこれらの検査の流れを紹介するとともに、現在までの連携症例について報告する。

「当院における透析中のリムサルベージの取り組み」

水戸済生会総合病院 透析センター 臨床工学技士 木済 修

透析は週に三回で、一回の治療に平均四時間が必要です。当院では、末梢動脈疾患を合併する糖尿病性腎症の透析患者に対して、その長い治療時間を利用し、下肢血流改善を試みました。

「糖尿病足病変における functional salvage」

埼玉医科大学 形成外科教室 助教 寺部 雄太 先生

ここ数十年で limb salvage が広がり、多くの大切断が回避されるようになった。

それに伴い limb salvage では予防医療や再発防止にも治療が広がっている。

糖尿病足病変(以下DF)においては、創傷治療のみが目的ではなく、多職種との連携による total management が行われつつある。

近年その流れの一環として functional salvage が重要視され、DFでは糖尿病治療医、血行再建医、透析医、創傷治療医のみならず多くのコメディカルが関わるようになってきている。

Functional salvage の多くは、コメディカルによって成り立ち、栄養士による栄養指導、看護師によるフットケア、臨床検査技師・臨床工学技士による早期発見、理学療法士・作業療法士による gate salvage 等が挙げられる。

今回DF治療での創傷治療医の観点で functional salvage について意見を述べたい。